



今回は、眼科長の高宮美智子医師（写真：右）にお話を聞いてみましょう。

**Q** 白内障・緑内障・加齢黄斑変性症<sup>おうはん</sup>について教えてください。

**A** **白内障** 水晶体が濁る病気です。症状は、細かい字が見にくい、人の顔がはっきりしないなど。老化が主な原因ですが、全身疾患のある糖尿病やアトピーの人、ステロイド薬や様々な薬を飲んでいる人、そのほか外傷でも起こります。治療は、濁った水晶体を取って人工レンズを入れる手術を行います。視力は改善しますが、運転時や新聞を読む時など必要に応じて眼鏡が必要になります。

**緑内障** 眼圧が上がって視野が狭くなる病気です。日本人の場合、眼圧が正常（21mg以下）でも緑内障になる人が半数以上を占めており、この場合は自覚症状がありません。検診で「視神経乳頭陥凹<sup>しんけいにゅうとうかんおう</sup>」という結果で見つかることが多い印象を受けます。原因は加齢や遺伝性のもの、また薬剤性によるものなどがあります。視野が狭まる進行を抑えるため、治療は眼圧を下げる点眼薬で行います。

**加齢黄斑変性症** 視野中央の縦線や横線が歪んで見える、ある一点が見にくい・かすむ・ぼやける、といった症状のある病気です。原因は加齢や遺伝性のもの、またタバコなどの生活習慣もあると言われていいます。主な治療は抗VEGF療法です。これは「新生血管」という悪性の血管ができるのを抑える薬を眼球に注射する治療です。薬にもよりますが、初めの3か月は月1回、その後2か月に1回あるいは様子を見て再発したら行つなど個人によって異なります。

両眼で見ると、意外と片眼が見えないことに気づかないことが多いようです。カレンダーなどを右眼と左眼で別々に見て、見えにくいなどの症状があったら早めに受診されることをお勧めします。